

～昨日の風 明日の風～
**経営コンサルタント
 独白録**

【第96回】 15年後を思え！



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、(株)経営改善支援センター(福岡市、URL: <http://sien.co.jp/>)代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

スマートフォンを代表するiPhoneの登場は2007年でした。タブレットを代表するiPadの登場は2010年です。つまり15年前には、スマホやタブレットはこの世の中に存在していません。概念としてはあったかもしれませんが、それはごく限られた人たちの中の話で、ひょっとするとステイブ・ジョブズの頭の中だけにしかなかったのかもしれませんが。

そのスマホやタブレットが、現在どのような役割を果たしているかを考えると、人間の想像力は15年先までは読めないのではないかと思います。現在のように世界中を網羅する通信網の発達は当時SFの世界でした。ましてや個人がそうした端末を持ち、SNSなどで発信をし、情報を共有する世界など誰も想像ができませんでした。同時に、キャッシュレス化や位置情報の確認、交通機関の利用にまで影響を与えることなど思いつきもしません。教育の現場やテレビ会議などでの利用は今では当たり前のことになってしまいました。挙げ句の果てには、スマホやタブレットがなければ仕事ができないと言い出す世代まで登場してきています。15年前まで、誰も想像することができなかったことが日常的な現実世界で当たり前のように繰り広げられているのです。

想像力の翼の限界

さて、これから15年先の世界はどのようなものでしょうか？現在の延長線上に存在することは当然ですが、その形や意味は随分と変わっているはずで、そしてそれは15年前に今の社会や生活スタイルを想像することができなかったように、今の常識からするととてつもない変化であるはずで、

人間は、3年から5年、かろうじて10年位までは想像することができます。しかし15年となると霧の中としか言いようがありません。個人レベルで考えても20歳の時に40歳の自分は想像しづらかったのではないのでしょうか。

1945年(昭和20年)、第二次世界大戦終了の年

に世界中の人々は、国土が焼け野原になったドイツと日本は、今後50年間世界の表舞台で活躍はできない、と考えていました。ところが、その15年後の1960年(昭和35年)、この2つの国はアメリカに次いで世界を代表する工業国に生まれ変わっていました。そして、64年(昭和39年)に日本はアジア初となる東京オリンピックを開催しました。その年、東海道新幹線が開通したほか、首都高速が作られたのでした。敗戦国に比べ被害の少なかったイギリスやフランスが旧態依然とした体制をとっていた一方、ドイツと日本は全て新しく国を作らなければなりません。新たな都市開発と最新の製造機械を備えたことにより世界の工業国となっていたのでした。

15年後をどのように想像するか？

15年前に自動運転の技術はありませんでした。医療現場での検査体制も今とは比較にならないほど遅れていました。金融決済の仕組みも、情報共有の仕組みも昔とは大違いです。民間人が宇宙に行くことも絵空事で、AIがさまざまな判断を行うことなどまだ先のことだと思われていました。「15年後をどのように想像しますか？」それこそが経営者にとって最も重要な課題になりました。いつまでも古臭い常識や従来の意識で組織を運営しようとするれば、必然的に時代の流れに乗り切れず、消えていかなければなりません。悪しき精神論・根性論などを持ち出す組織にまず明日はありません。そのために、本質的な情報を集め、次世代を乗り切る人材を必死で育成しておかなければ間違いなく組織は消えていきます。「このことが理解できない経営者は、自ら身を引くべきではないか？」先週ある研修会で最後にそう述べました。昨今の世界情勢や社会変化、技術革新を見ているとますますその思いが強くなります。意識変化を推し進める本当の意味での【設備投資】に、コストを惜しまず着手しておかなければ15年後の未来はないかもしれません。